

常盤樹 (ときわぎ)

第6号

札幌市立常盤中学校
2025年11月18日発行



学校HP QRコード

令和7年度全国学力・学習状況調査 本校の結果

令和7年4月17日に全国の中学3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の本校の結果、及び今回の調査における課題と改善の方向についてお知らせいたします。

今回の「全国学力・学習状況調査」では、国語、数学、理科を実施しました。個別の結果については返却しております。分析にあたっては、以下のように全国平均との差を「3ポイントの幅」で区切って表現しておりますので、参考になさってください。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ●+3.1ポイント以上 | ⇒「上回っている」 |
| ●+3.0ポイントの範囲内で全国平均を上回る | ⇒「ほぼ同程度であるが、やや上回る」 |
| ●全国平均と同じ | ⇒「ほぼ同程度」 |
| ●-3.0ポイントの範囲内で全国平均を下回る | ⇒「ほぼ同程度であるが、やや下回る」 |
| ●-3.0ポイント以下 | ⇒「下回っている」 |

なお、この調査結果は、学校における教育活動の一側面であり、教育活動全体の評価ではないことにご留意願います。

1 学力調査の結果・課題と改善の方向

国語

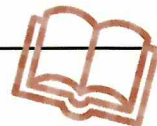
本校の結果概要

調査における課題

改善の方向

項目	平均正答率		
■言葉の特徴や使い方に関する事項	・上回っている。	・文脈に即して漢字を正しく使い、事象や行為を表す語彙について理解しているかどうか	・語句の量を増やすとともに、辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うようにする。
■話すこと・聞くこと	・上回っている。	・資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現や話の構成を工夫することができるかどうか	・実践的なコミュニケーションスキルを向上させるための活動を授業に取り入れる。
■書くこと	・ほぼ同程度であるが、やや下回る。	・読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうか	・推敲の活動を通して、完成度を高めるようにする。また、その際の観点を明確にしていくことで文章全体を整える力をつけるようにする。
■読むこと	・ほぼ同程度であるが、やや上回る。	・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうか	・登場人物同士の言動の関係が、話の展開においてどのような意味をもつのかを考えるようにする。

国語は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の項目が上回り、「読むこと」の項目の平均正答率が全国平均よりやや上回っていたものの、「書くこと」の項目がやや下回っていました。



数 学

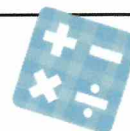
本校の結果概要

調査における課題

改善の方向

領 域	平均正答率		
■数と式	・全国平均を上回っている。	・式の意味を読み取り、成り立つことがらを見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうか。	・「数と式」・「図形」領域の課題は共に、証明や説明に関わる設問である。証明の流れや型の反復練習による定着に加え、学習活動における教え合い活動の充実により、表現力を高めていく。
■図形	・全国平均を上回っている。	・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうか。	
■関数	・全国平均を上回っている。	・1次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうか。	・「関数」では、変化の割合のみを復習するのではなく、式・表・グラフの3つと関連付けて学び、関数の理解を高めていく。
■資料の活用	・全国平均を上回っている。	・相対度数の意味を理解し、度数分布表から正しくデータを読み取ることができるかどうか。	・「資料の活用」では、問題を解くための基本的な知識の定着をまずは図り、その後演習問題により理解を深めていく。

数学は、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において平均正答率が全国平均を上回っていました。



理 科

調査における課題

改善の方向



・露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさと隙間の大きさに着目して分析して解釈すること。

・消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、分解に関する身近な事象を比較し、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識を概念として捉えること。

・地層モデルや露頭の画像を活用し、生徒が地層の広がりや重なりを試行錯誤しながら考えるなど、時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈する学習活動の充実。

・化学分野ではない身近な事象を考える際にも、質的な視点で捉え、化学変化など多面的な思考を用いていく学習活動の充実。

※理科については、検査の一部がオンラインによる解答（C B T方式）で行われ、公開問題の領域に偏りがあり、領域ごとの概要の分析が困難なため、自校の課題と改善の方向のみを表示しています。

2 質問紙調査から

本校のアンケート結果を全国平均と比較したところ、多くの項目で全国を上回る結果が見られました。特に「生活習慣の安定」「学校生活の満足度」「学習への意欲」「授業の理解度」において顕著です。一方で「家庭や地域との関わり」「授業内でのICT活用」についてはやや低い傾向が見られました。

■全国平均より数値が上回っているもの

番号	項 目
1, 2, 3	・生活リズムの定着 毎日同じ時刻に寝起きし、朝食をとる児童の割合が高く、生活習慣が整っている。
6, 11, 12	・学校生活の満足度が高い 「学校が楽しい」「先生がよいところを認めてくれる」「人の役に立ちたい」など、人間関係や自己肯定感に関する項目が全国を大きく上回っている。
16, 39	・主体的に学ぶ態度の育成 「自分で学び方を工夫できる」「協力して課題を解決する」など、主体的・対話的な学びが定着している。
54, 57 59, 62 68, 69	・教科学習の理解と意欲 特に数学や理科で「内容がよく分かる」「あきらめずに考える」「観察・実験を行う」など、学習理解度と探究的な取組が高く評価されている。
28, 29	・ICT活用スキルの高さ 「ICTでプレゼン資料を作成できる」など、スキル面での活用力が高い。

■全国平均より数値が下回っているもの

番号	項 目
17, 26	・家庭・地域での学習や活動機会の少なさ 「平日の家庭学習時間」「地域の大人との関わり」など、学校外での学びや交流が、やや少ない傾向にある。
22	・家庭の学習環境における差 「家の本の数が多い」項目が全国より低く、読書習慣や家庭学習環境の充実が課題として挙げられる。
28	・授業内でのICT活用頻度の少なさ スキルは高い一方で、授業場面でICTを活用する機会が全国より少なく、学校内でのICT環境の活用促進が今後の課題である。



今後は、これまでに培われた「学習意欲」「生活習慣の安定」「良好な人間関係」といった強みを維持、発展させながら「家庭学習や読書活動の推進、地域との連携強化」「授業内でのICT活用の充実と実践共有」「子どもたちの主体的な学びを支える環境づくり」といった点にもさらに重点を置く必要があると考えています。

これらの取組を通じて、生徒が自ら学びを広げ、社会とつながりながら成長できる学校づくりを目指していきたいと思います。

最近の学校の様子から… 「総合的な学習の時間」 第Ⅲ期の活動



1 年生「札幌調べ」

今年度はこれまでと調べ方が画期的に変わりました！道内の他の市（函館市、旭川市、帯広市、釧路市、網走市、等々）と比較して、札幌を調べ、その良さや課題を発表します。発表日は、1月28日（水）です。

2 年生「地域活性化案」

11月17日（月）は地域からゲストティーチャー11名が来校。作成途中のスライドを見ていただき、アドバイスをもらい有意義な1時間になりました。発表日は、12月18日（木）です。



3 年生は「札幌市への提言」

札幌市まちづくり戦略ビジョンに合わせて「ユニバーサル（共生）」「ウェルネス（健康）」「スマート（快適・先端）」のいずれかのテーマから、個人の提言内容を決め、考えを深めている最中です。1、2年生に先駆けて12月16日（火）が発表日です。

※次号でまた、続報をお伝えします！